

QR Quality Review

.1



〈左〉4月11日発売の新商品は、華やかなシャンパンカラー5色と、マットな白と黒で全7色。1分間に1万6000回の音波振動で、しっかり磨ける。〈右〉ブラシは、パナソニック独自開発の「ダブルエッジ形状」を採用。エッジ部分に極細毛が植えてあり、複雑な歯並びでも奥歯や歯間がしっかり磨ける。

Pocket Doltz 音波振動ハブラシ『ポケットドルツ』

撮影／安田仁志 取材・文／中村 桂

電動ハブラシの ユーザー層と市場規模を 劇的に広げた革命的商品!

たぶん世界一清潔好きな日本のOLにとって、いまや欠かせない習慣となっているのがランチ後のハミガキだ。理由は、食後に歯を磨かないと気持ち悪から、口臭が気になるから、気分をリフレッシュしたいから、などさまざまだが、実に20代OLの半数が昼磨きをしている。

そんなOLたち絶賛の商品が、音波振動ハブラシの『ポケットドルツ』だ。2010年4月発売以来、瞬間に売り上げを伸ばし、50万本の販売目標は3ヶ月でクリア。半年で100万本、9ヶ月で150万本を突破し、たった1年でそれまでの市場規模を2倍にするほどの人気商品となったのだ。

人気の秘密は、それまで“重い、うるさい、かさばる”といった理由で女性から敬遠されていた電動ハブラシを、“軽く、小さく、静かに”した点にある。

これにより、従来、歯槽膿漏を気にするおじさん向け商品だと思われていた電動ハブラシを、一気に女性に広めることに成功したのだ。

パナソニックでは開発に当たり、OLの化粧ポーチのサイズを徹底的にリサーチ。その結果マスカラより少し大きめならOKという結論にいたり、まずはサイズのコンパクト化を目指した。その後、耳障りにならない程度の音になるよう試作を繰り返し、デザインもコスメグッズのような見た目を追求。このような機能性追求型ではなく目的追求型の開発には当初戸惑いもあったというが、苦勞の甲斐があり、OLの心をわしつかみにする商品の誕生となったのだ。また、目的追求型の開発とはいえ、短時間できちんと磨けるよう、ブラシヘッドを小さくしたり、形状に工夫をするなど、機能性も十分ユーザーを満足させることのできるレベルを実現した点も人気の理由のひとつ。

今年にはさらにスリムになった新商品も登場。カラーも全7色とよりどりみどり。こんなおしゃれなハブラシなら、

すでに自宅で電動ハブラシを使っている人も、未使用者でも、外出用に欲しくなるのは必須。実際、女性ユーザーから、「歯がツルツルになって気持ちいい!」「使っていると気分があがるかわいいルックス」「ハミガキが楽しくなった!」「自宅用もほしい!」など、絶賛の声が上がっている。

また、歯科医師からも、昼磨きの定着に一役買ったことを感謝されているとか。

2本目の自分用に、ちょっとしたプレゼントに、あなたも『ポケットドルツ』を手に入れてみてはいかがだろう。きっと手放せなくなるはずだ。



「ポケットドルツ」
EW-DS12 オープン
価格（実勢価格約
4000円）サイズ：高
さ16×幅1.65×奥行
1.8cm 使用時間：単4
系アルカリ乾電池（充
電式電池でもOK）
1本使用で、1日2回
使用した場合3ヶ月
丸ごと水洗い可

Pocket Doltz



QR Quality Review .2



(左) 昨年11月には、カラーサインペンも登場。フリクラや写真、カードなどをデコるのが大好きな、日本の女子中高生ユーザーを意識した新商品だ。全12色。各105円(税込み) (右) 消去用ラバーが小さいため、こまかい文字を一部分だけ消すことも可能。ラバー部分にインキが色移りすることもナシ!

FRIXION

こすって消せるペン『フリクション』

写真/安田仁志 取材・文/中村 桂

世界的大ヒットの裏に、研究者による粘り強い開発秘話あり!

2006年1月、ヨーロッパで先行発売され爆発的ヒットを記録した、消せるペン『フリクション』シリーズは、世界累計3億本もの売り上げを誇る爆発的ヒット商品だ。

日本での発売開始は2007年だが、その開発が始まったのは、実に35年以上前のこと。ある研究者が、夏のあいだ濃緑に茂る木々の葉が、秋になると一夜にして紅葉する魔法のような力を、ピーカーの中で再現したい、と考えたことがきっかけだ。

そんなロマンあふれる思いから始まった研究により、1975年フリクションインキの基本技術「メタモカラー」の開発に成功する。温度変化により色が変化するインキの誕生だ。

その仕組みは、ロイコ染料、顕色剤、変色温度調整剤を一つのカプセル内に均一に混合し閉じ込めて顔料化したもの。開発当初は、色が消えたりよみがえったりする温度幅が、わずか数度し

がなく、変色と復色の温度もあいまいだった。そのため筆記具への応用はできず、冷たいものを注ぐと絵柄が変化するグラスや、お風呂に入れると絵柄や文字が消えるおもちゃなどに活用された。しかしその間も研究者たちは“消せる筆記具”づくりという夢を、決して諦めることはなかった。

研究開発の最大の障壁となったのは、素材となる成分を閉じ込めるマイクロカプセルの小型化と、変色温度の調整剤の開発。ひたすら地道な研究を重ねる研究室は、当時社内で“不夜城”と呼ばれていたという。いかに研究者たちが粘り強く開発を続けたかを物語るエピソードだ。

その長年の努力が実り、2002年マイクロカプセルを2~3ミクロンまで小型化することに成功する。ちなみに日本人の毛髪の直径は80~100ミクロンだから、毛髪の40分の1程度まで小型化したことになる。また同時期に、これまた気の遠くなるような研究開発を経て、新しい変色温度幅の調整剤を見出すことにも成功。

そして2005年、世界で初めて“消せる筆記具”の製品化が実現する。完成したフリクションインキの変色温

度幅は、摂氏65℃から-20℃。ペンのお尻やキャップについている消去用ラバーで、書いた文字をこすると、その摩擦熱で文字が消える。消えた文字がよみがえらせるには-20℃まで冷やさなければならないため、通常の生活の範囲では、まず復色することはない。また消しゴムのようにカスが出ることもない。これも絶大な人気を支える理由のひとつだ。

複雑な文字を書き、粘り強い性格の日本人だからこそ実現できた、夢の筆記用具『フリクション』シリーズ。ボールペン、サインペン、蛍光ペン、まずはどれを使ってみる?



昨年7月に発売された、ノック式のボールペン『フリクションボール ノック』赤、青、黒の3色。今年3月に7色が追加され、全10色のラインナップとなった。各241円(税込み)

FRIXION

